

さかい輪

かわら版

第18号（特集号）

坂井輪中学校区まちづくり協議会だより

今回のかわら版は、新潟大学の「コミュニティ・インターンシップ」を受講している学生のみなさんが、実際に地域活動に参加し、また、まちづくり協議会に携わっている役員の方から話を聞き、「地域が抱える課題」、「地域活動に参加することの大切さ」などについて話し合い、検討した内容について、特集号として発行します。

紙面の企画・構成などもすべて学生のみなさんが考えて作ったものです。積極的に活動に関わってもらい、かわら版制作の過程では何回も集まって打ち合わせをしていたと先生方からお聞きしています。

学生が真剣に作った今回のかわら版、みなさまにもしっかりと読んでいただきたいと思います。

（広報部長 目黒 浩輔）

コミュニティ・インターンシップ担当教員：澤邊 潤（さわべ じゅん）先生

今回、自治体や坂井輪中学校区まちづくり協議会にご協力いただいた「コミュニティ・インターンシップ」の授業では、学生はもちろんのこと、教員もたくさんのお話を学ぶことができました。新潟大学がある西区など、新潟市の地域のことを十分にわかっていなかったことを改めて実感し、我々も学生とともに自分たちが暮らす地域のことを学び続けていきたいと思うことができました。加えて、大学では見られないような学生の姿を見ることもでき、大学生（若者）が地域で活躍することへの期待や可能性を感じることができました。このような経験をすることができ、大学を離れ、地域のなかで学ばせていただくことへのありがたさを感じております。今回の坂井輪中学校区まちづくり協議会のご協力に改めて感謝申し上げます。

タイトル

地域の“つながり”に踏みだそう！ はじめの一歩！

グループの目標【1. **主**体的に行動する 2. **成**長する 3. **特**徴をつかむ(地域の)】 チーム名【**主成特**(しゅせいとく)】



理学部 3年 大久保 誠（おおくぼ まこと）

小針中出身！西区大好き！地域の課題に、真面目に取り組めます。



教育学部 2年 中井 智貴（なかい ともき）

地域交流大好き！自分の力を最大限に発揮し地域に貢献します。



農学部 1年 茂木 理紗（もてぎ りさ）

人と話すことが大好き！元気よく、地域の皆さんに笑顔をお届けます。



農学部 1年 亀倉 有稀（かめくら ゆき）

新潟大好き！燕市民！地域について理解を深めるため、頑張ります。



農学部 1年 武田 梨里（たけだ りり）

農業大好き！コシヒカリ大好き！笑顔で地域とかかわりを深めます。



皆さんは、まち協の活動に参加したことはありますか。まち協は、坂井輪地区のお店を紹介した坂井輪マップの作成など、皆さんの地域に根差した活動を行っています。私たちは、実際の地域活動(坂井輪美化推進活動)に参加した後に、まち協役員の皆さんとの懇談会を行い、地域の実情について学びました。かわら版では、懇談会について紹介していきます。

いつも街が綺麗な事は当たり前のことだと思っていましたが、当番が回ってきて自治会の役員になってみるとたくさんの方々の働きで当たり前になっていたことに気づきました。まち協の役員として地域課題を解決するために知恵を絞りたいと思っています。
(子ども部 郷さん)



まち協の活動と仕事と、両立は大変なこともあるが、誰かがやらないと、地域活動は衰退してしまう現状がある。自分も若い人へ活動を引き継いでいきたい。
(産業振興部 堀井さん)

まち協の方との意見交換を通じてわかったこと…

○まち協は、行政の活動を補うような、地域に根差した活動を行っている！

まち協は、地域防災訓練や子どもの見守り活動など、陰ながら地域を支えています。このような活動があつてこそ、私たちが安全で豊かな生活ができているということに気づきました。

○しかし、人材が不足している…

限られた人の中で行うしかないので、活動の規模や質の維持が難しいことがわかりました。また、地域活動が次の世代につながっていかないことが課題でした。



活動を終えての感想： 私たちができること…

今回、まち協の活動に参加して、色々な世代の方々とお話しし、多くの人の手によって、地域の安全、安心、景観が守られているということを知りました。その中で、私達でも微力ながらも地域のお役に立てるということを実感しました。また、自分のこれまでの経験や好きなことを地域活動の中で生かし、人の輪を広げていく場がまち協だと思いました。私たちも、このような地域活動に関心を持ち続け、住民とのつながりを深め、地域のなかの細やかな出来事に感謝しながら、大学生の私たちが出来ることから取り組んでいきたいです。

【活動を通じてのコメント】大学内では学べない事を地域から学ぶため、坂井輪中まち協に受け入れていただいた今回のインターンシップ。接したことのない地域の方々と交流に学生は戸惑うのではと思っていましたが、とても積極的でその行動力に驚かされました。同時に世代ギャップをものともせず意見交換をする地域の皆さんの懐の深さにも改めて感心しました。お互いが意見を尊重し理解を深めていく様子はまさに協働のお手本であり、今後も多世代によるまちづくりの輪をさらに広げていっていただきたいと思います。

(新潟市市民協働課 今井 亮さん)

西区道路



新大前駅

みなさん、新潟大学駅前と西区のメイン通りに置いてあるお花を誰が植えているか知っていますか？

こうした活動は、まちづくり協議会(通称:まち協)の方たちが行っています。

私達は、まち協が、「みなさんの日常生活を豊かにし、地域のつながりの基盤を作る」という目標を掲げて、自治会や NPO、ボランティア団体などの組織が連携しながら活動していることを学びました。

では、実際にまち協はどんな活動をしているのでしょうか？

まち協では防災訓練、あいさつ運動などの活動をしています。みなさんも一度は目にしたことがあると思います。このような活動の1つとして、今年からの新しい取り組みとして**坂井輪美化推進活動**があります。

私達は10月15日(土)に行われた、この活動に参加させていただきました。最初、私たちはこの活動が坂井輪地区を花で飾ることだけを目的としていました。

しかし、実際に参加してみるとそれだけではなく、まち協の方たちと一緒に作業することで、会話が生まれ仲良くなることができました。このような、まち協の活動は地域のつながりを作っているのだと感じました。

この地域のつながりが坂井輪中学校区のより良い未来を築いていくのだと思います。

まち協の活動に興味を持ち、私たちが感じた“**つながり**”をみなさんとも共有できたら幸いです。



作:武田 梨里

参加していた方々から料理を教えてくださいました！
「カレー粉を使った唐揚げ」は美味しかったです!!



【活動を通じてのコメント】積極的に質問し、真剣に話し合っている学生の姿、また、それに応えようと取り組む坂井輪中まち協さんの姿に感動しながら、講義に参加させていただきました。今回のかわら版は、学生が地域の皆さんと一緒に活動するという貴重な経験を通じ、一生懸命まちづくりに取り組む姿を発信していただきました。読んでいただいた様々な世代の方が地域に関心を持つきっかけになれば幸いです。学生を温かく受け入れていただいた地域の皆様に感謝します。ありがとうございました。(西区役所地域課 宮川 美根子さん)

さかい 輪

かわら版

第18号 (特集号)

坂井輪中学校区まちづくり協議会だより

地域活動での課題・・・後継者不足・・・
この問題が常に頭から離れない中で、このたび新潟大学インターンシップ事業で若い学生の皆さんとの交流を行いました。

10名の学生の皆さんと活動や意見交換を行いました。明るく積極的な活動をする学生諸君に安心し、若者のパワーも感じました。

このかわら版の中で学生の皆さんがタイトルで示した「見る！知る！参加する！」、「地域のつながりに踏み出そう！初めの一步」は、地域の皆さんに呼びかけている学生諸君の思いが感じます。このタイトルの後に「地域活動は個々の皆さんの『勇気』が大切である！」と付け加えて、今回参加した学生の皆さんを励ましたいと思います。

(坂井輪中学校区まちづくり協議会
会長 梶原 宜教)

コミュニティ・インターンシップ担当教員：

古村 健太郎 (こむら けんたろう) 先生

「コミュニティ・インターンシップ」は、「大学外の皆様とともに学ぶ」を目標に、今年度から新潟大学が取り組んでいる授業科目です。5学部（人文学部、教育学部、理学部、農学部、医学部）の学生10名が、自治体（新潟市、西区役所）、坂井輪中学校区まちづくり協議会の取り組みを学び、実際に地域活動に参加させていただきました。学生は講義を通じて、地域とのつながりの重要性に気づき、その思いをかわら版に込めようと試行錯誤してきました。ご覧になった皆様には、ご意見やご感想をいただければ幸いです。このような貴重な機会をいただきました梶原会長はじめ広報部の皆様、地域活動でご指導いただきました環境部の皆様に心より感謝申し上げます。



タイトル：見る！知る！参加する！
グループの目標：現状把握 ニーズに対する解決策 発信



農学部1年
まのめ りさ
馬目 里沙



農学部1年
しのざき まちこ
篠崎 万智子



教育学部3年
ささき たつと
佐々木 達人



人文学部1年
おおはし みさと
大橋 美里



医学部3年
こうらかた みほ
小浦方 美穂